

尼崎医療生協病院 奨学生交流会

2021年10月16日(土)を開催しました。

10:30~12:00

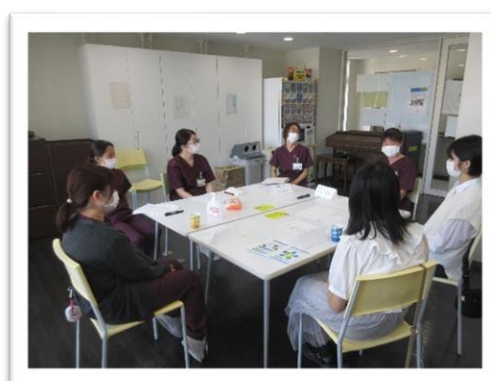


今回は、23卒の2名の奨学生が参加となり、対面での交流会となりました。
今年の新しい看護学生委員のメンバーでの対面企画は初めてだったため、ドキドキワクワク！

今回の学習内容は主に『命に寄り添う看護とコロナ禍の1年を、現場看護師から学ぶ』
というテーマで行いました。

タイムスケジュール

- 15分 自己紹介・アイスブレイク
- 35分 学習:民医連医療の取り組み
DVD「命に寄り添う コロナ禍の1年」
- 5分 休憩
- 30分 学習の感想・質問タイム・看護師の座談会



DVD視聴後、職員からの感想にも、自分たちが実際に経験したことを織り交ぜながら発表しあい、学生たちの心にも響いたように思いました。学校やニュースでは聞くことが出来ない生の声を聞ける、交流会ならではののではないかと思います。感想をご紹介します。

病気はコロナだけでなく、搬送先がみつからなかったり、持病がある患者さんがコロナの恐怖から通院を控えるなどして、入院した時には手遅れで亡くなる患者さんもいました。一層、患者さんに寄り添う大切さを痛感しています。

2 東病棟看護師

クラスターのことを思い出してグッとくるものがありました。看取りも現在は1人しか家族は入れず。コロナの前との、対応の落差を感じすぎています。そんな中でも今できることは何か、模索しているところだが辛いと思うことも多いです。

4 階病棟看護師

座談会では、日ごろの実習での悩みごとや、コロナ渦でがらりと変わってしまった学校生活の様子を学生から聞き、職員も看護学生の大変さを知ることが出来ました。話も尽きず、あっという間の30分でした。

学校でもコロナのことは聞くことはあったがDVDを見て実習の時の意識を変えていこうと思った。



久しぶりに会えたので、とても楽しかったです！

次回は、12月に交流会を予定しています。お会いできるのを楽しみにしています♪

看護学生対策担当 Y.K